

ラグビーワールドカップ 日本代表 地域全体が「ワンチーム」になるために

4年に一度のラグビーワールドカップがアジアでは初めて日本で開催されました。日本は世界ランク2位のアイルランドを破り、初の決勝トーナメント出場を果たすなど、大変な盛り上がりを見せました。

多様性のスポーツ

迫力あるぶつかり合いとスピード感で攻守が入れ替わり、多彩な戦術を繰り広げ、試合が終わればノーサイドでお互いを称えあう。ラグビーにはたくさんの魅力がありますが、その中でもラグビーが持つ多様性が注目されています。

例えば、選手たちが整列したときによく分かりますが、様々な体型、身体能力の違う選手にも適材適所のポジションがあります。

また、多様なルーツを持つ多くの外国人が日本代表としてプレーしています。これは、オリンピックなどが採用する国籍主義ではなく、3年以上継続して日本に居住しているなど一定条件をクリアすれば、日本国籍が無くても日本代表としてプレーが可能なことからです。

違いを認め合いながら

日本代表のリーチ マイケル主将は「ラグビーはメッセージのスポーツ」だと語っています。大きな相手にひるまずタックルする選手がいれば、その気持ちはチーム全体に伝わります。

地域においても排他的な視点ではなく、違いを認め合いながら地域をよりよくしたい思いや行動は、メッセージとなって地域全体に広がるのではないのでしょうか。

そのメッセージを受け止めるのも、発信するのも私たちです。